

ニュース・年間行事

■2010年

○10月25日 「製剤機械研究会」の教育研修への協力に対し『感謝状』を受賞しました。

・「製剤機械研究会」は、その活動の一環として、毎年会員を対象に「教育研修会」を開催しており、当社はその会場として「つくばテストセンター」を提供するとともに「粉碎に関する講習と実習」を行ってまいりました。同研究会の「20周年記念大会」（10月18日・19日）において、長年に亘る当社の協力に対して『感謝状』が授与されました。

○10月28日 PLGAナノ粒子を用いたDDS開発が「製剤と粒子設計シンポジウム “技術賞”」を受賞しました。

・PLGAナノ粒子の調製とそのコンポジット製剤化技術を用いた当社の事業展開が、粉体工学会・製剤と粒子設計部会主催の『平成22年度 製剤と粒子設計シンポジウム』（10月28日・29日）において技術賞を受賞し、受賞者のマテリアル事業本部 製薬美容科学研究センター長 辻本広行が記念講演を行いました。

○11月1日 ホソカワアルピネAGがインドのプラスチック押出装置メーカーRajoo Engineers社と業務提携契約締結

・当社の子会社ホソカワアルピネAG（以下、アルピネ社）がインドのプラスチック押出装置の有力メーカーRajoo Engineers社（以下、Rajoo社）と同製造装置分野における業務提携契約を締結いたしました。当面はRajoo社がアルピネ社製品のインドおよびアフリカ地域における代理店として機能し、将来的には両社で新興国向け装置の共同開発、製造、販売網の拡大を進める可能性を有しております。

○11月9・10日、11月17・18日 ホソカワミクロンB.V.（オランダ）が化学業界および食品業界向け独自セミナーを開催

・混合機で世界的に著名なオランダの海外子会社ホソカワミクロンB.V.（社長：Jos Giesen）がホソカワアルピネAG（ドイツ）と協賛し、また、レベル計などの計測機器メーカーや粉塵爆発対策用機器などのパートナーとの協力を得て、ホソカワ・インハウスセミナー “Powder Processing

Experience 2010”を開催しました。化学関連企業向けには“Chemical Industry Seminar 11月9日（火）・10日（水）”，食品関連企業向けには“Food Industry Seminar 11月17日（水）・18日（木）”の日程で開催いたしました。

○11月22日 粉碎性能に優れ金属コンタミのない分級機内臓型ターゲット式ジェットミルを開発

・当社は多種多様なユーザーの目的に合せた多種多様な粉碎機を有しておりますが、この度、粉碎効率を極限まで高め、且つ、金属コンタミが全くなく、分解清掃が容易な新型ジェットミルMJQ型を開発いたしました。本新製品は、12月1日（水）～3日（金）に東京ビックサイトで開催された「国際粉体工業展 東京2010」（社団法人日本粉体工業技術協会主催）への出展を機に販売を開始いたしました。

○11月29日 (株)日清製粉グループ本社および日清エンジニアリング(株)による当社株式の取得の件 並びに日清エンジニアリング(株)との業務提携の協議に関する覚書締結の件

・平成22年11月29日付けで、株式会社日清製粉グループ本社（取締役社長村上一平，東京都）及びその100%子会社である日清エンジニアリング株式会社（取締役社長山田幸良，東京都）は当社株式を株式会社ユノインターナショナルから取得することになり、当社は株式会社日清製粉グループ本社による取締役等の派遣を受け入れることといたしました。また、これに伴い、同日開催の当社取締役会において、日清エンジニアリング株式会社と粉体機器事業およびプラントエンジニアリング事業における協力関係の構築について協議する旨の「覚書」（以下、本覚書という）を締結することを決議し、同日、当事者間において本覚書を締結いたしました。

○12月27日 抹消血管狭窄治療に用いる医療デバイス用DDS人工核酸製剤のアンジェスMG社との共同特許が日米で成立

・NEDO「次世代戦略技術実用化開発助成事業」に採択されているアンジェスMG社の『薬剤溶出型PTAバルーンカテーテルに関する共同開発プロジェクト』に用いられている当社とアンジェスMG社の共同特許「NF-κBデコイオリゴの製剤特許」がこのほど日米で成立し、12月24日（金）

午後、アンジェスMG社より発表されました。本特許は、アンジェスMG社が開発した人工核酸(NF- κ Bデコイオリゴ)と当社のPLGAナノ粒子を用いたDDS技術とが合体した製剤で、シャント血管などの抹消血管の狭窄部位を治療するためのバルーンカテーテルに用いられます。

■2011年

○2月3日 第17回ホソカワ粉体工学シンポジウムの開催

・枚方本社の12階にて、「電池の未来を拓く粉体技術」をテーマにした4件の講演があり、全体で147人の参加がありました。

○2月8日 界面特性：ぬれ性測定装置 ペネトアナライザPNT-N型を開発

・二次電池の電極材料や食品、医薬品など多種多様な粉体の界面特性を評価するために必要な指標の一つである【ぬれ性】を測定するための装置ペネトアナライザPTN型を大幅にリニューアルしたホソカワ/ミクロン ペネトアナライザPTN-N型を開発し、3月2日(水)～4日(金)に開催された『第2回国際2次電池展 バッテリージャパン』(東京ビックサイト西展示棟)に出展し、発売を開始いたしました。ペネトアナライザは、粉体層に浸透する液体(媒液)との親和性(ぬれ性)を評価する装置です。また、粉体の液中への分散性の予測や粉体粒子の微細表面特性の評価にも用いることができます。

○2月10日 日本薬剤学会『旭化成創剤研究奨励賞』を受賞

・当社製薬・美容科学研究センター(センター長：辻本広行)の研究員原香織が『2011年度 日本薬剤学会旭化成創剤研究奨励賞』を受賞することが決定し、5月30日(月)に開催された「日本製薬学会第26年会」で授賞式および記念講演が行われました。この賞の対象となった【PLGA粒子のコンポジット化技術開発とそれを利用した新規育毛製剤の実用化】は、ヒトの肌や頭皮にも馴染みやすい生体適合性高分子PLGA(乳酸・グリコール酸共重合体)のナノレベルの大きさの粒子を用いて、様々な成分を含んだナノコンポジットを生成する製剤技術とその実用化で当社のナノテク化粧品ナノクリスフェアやナノテク育毛剤ナノインパクトに用いられているものです。

○2月21日 世界初の“難治性腸疾患治療用経口核酸

DDS製剤の産学5者共同開発”が国家プロジェクトに採択

・当社の製薬・美容科学研究センター(以下、当社研究センター)は、特定非営利活動法人バイオインダストリー振興会議を管理法人として、アンジェスMG株式会社および森下仁丹株式会社とともに、大阪大学大学院医学系研究科(森下教授、他)および愛知学院大学薬学部(山本准教授、他)の協力を得ながら、現在、根治困難とされている【難治性炎症性腸疾患】の根治を可能にする治療薬の開発を進めてまいりましたが、国家プロジェクト(近畿産業経済局)の戦略的技術支援事業【地域イノベーション創出研究開発事業】(総括事業代表者：当社研究センター長・辻本広行)に採択され、合計約8,500万円の助成を受けることが正式に発表されました。

○2月28日 粉体基本特性のグローバルスタンダード“パウダテスタ”を全面改良した新製品PT-X型を開発

・二次電池の電極材料や食品、医薬品など多種多様な粉体の安息角や圧縮度など7種の粉体特性値、およびかさ密度など3種の補助値を測定・評価するための測定装置「パウダテスタ」を大幅にリニューアルした「パウダテスタPT-X型」を開発いたしました。本装置は、3月2日(水)～4日(金)に開催された『第2回国際2次電池展 バッテリージャパン』(東京ビックサイト)に出展して予約販売を開始し、4月1日(金)より本格販売を行いました。

○3月2～4日 第2回国際2次電池展への展示

・ターゲット式ジェットミルセラミック製ミクロンジェットQ型MJQ-1ならびに研究開発用MJQ-LAB、セラミック製微粉碎機ACMパルペライザACM-15HC、乾式媒体攪拌ミルブルビスPV-600、媒体攪拌型気流乾燥機研究開発用ゼルビスXB-LAB、ナノ粒子複合化装置研究開発用ノビルタNOB-MINI、粉体特性評価装置パウダテスタPT-X、界面特性評価・ぬれ性測定装置ペネトアナライザPNT-N、ラボ用減圧吸引式乾式ふるい分け装置エアージェットシーブe200LS、受託分析のご案内、受託加工のご案内を展示。

○4月19日 当社のDDS開発が製剤機械技術研究会の最高賞「仲井賞」を受賞

・4月18日に開催された「製剤機械技術研究会」の

平成23年度総会・特別講演会において、同会の最高レベルの賞である『仲井賞』が当社の製薬・美容科学センター長 辻本広行および愛知学院大学教授 川島嘉明氏に授与されることが決定されました。10月に開催の「平成23年度大会」において、表彰式および受賞者による特別講演が行われました。

- 5月25～27日 第5回化粧品産業技術展 (CITE Japan 2011) への展示
 - ・PLGAナノパウダー (美白用途PLGAナノパウダー[最新技術], アンチエイジング用途PLGAナノパウダー, 化粧くずれ防止PLGAナノパウダー, ヘアケア用途PLGAナノパウダーセラミックス製), ならびに各種OEMの提案 (美容液 (用時調製式), パウダー状美容液, ファンデーション, 洗顔パウダー, ヘアトリートメント), 受託研究 (有効成分の封入に関するご相談) を展示。
- 8月30日 第45回粉体工学に関する講演討論会の開催
 - ・財団法人ホソカワ粉体工学振興財団の主催で、第45回粉体工学に関する講演討論会が千里阪急ホテルにて開催されました。今回のテーマは「ナノパティクルテクノロジーの構築と実用化への展開」。参加者170名。

編集後記

今年は大きな自然災害が世界各地で起こっています。日本では3月11日の東日本大震災や台風12号などで大きな被害がありました。特にこの大震災では1万5千人以上の方が亡くなられ、行方不明者の方を合わせると9ヵ月経った時点で2万人近くにもなっています。また、5月のアメリカミズリー州で発生した竜巻は犠牲者が110人以上という60年間で最悪の結果をもたらし、10月のタイでの大洪水は日本にも大きな影響を及ぼしています。一方、世界人口は1900年には凡そ16億人であったのが、1999年に60億人となり、そして本年10月末には70億人を突破しました。これに関連して食料や環境など多くの問題が懸念されています。

このような環境状況の中で、今後も持続可能な人間社会を維持、継続していくために、環境・エネルギーの問題は極めて重要な、切迫した課題となっていますが、これらに対して粉体技術の貢献できる分野は多くあるものと思われます。エネルギーの観点からは電気自動車やハイブリッド車が次第に浸透してきている感があり、これからのスマートグリッドも含めて二次電池や太陽電池、燃料電池などの電池類が益々重要になってきていますが、これらに対して粉体技術が貢献しています。環境保全や安全対策に対しても微粒子の取扱いに関する工学や技術が役に立つものと思われる、これらの展開、貢献を期待します。

本号は、2011年2月にホソカワミクロン(株)大阪本社にて開催された第17回ホソカワ粉体工学シンポジウム、ならびに2011年8月に大阪で開催された第45回粉体工学に関する講演討論会の講演内容を特集として編集されています。本誌はNo.50(2006/2007)からWeb掲載し、昨年は、一昨年に中断されました紙媒体での出版を再開しました。No.49(2005)以前の粉砕誌の記事については、No.50の総索引をご参照下さい。

本誌につきまして、ご意見、ご要望等がございましたら、何なりと事務局までご連絡頂けましたら幸いです。よろしくお願ひ致します。

“粉砕” No.55 (2012)

2011年12月13日 発行
出版責任者 横山 豊和
発行所 ホソカワミクロン株式会社
大阪府枚方市招提田近1丁目9
印刷所 (株)NPCコーポレーション
大阪市北区天満1丁目9-19
